

## 第8回国際学生フォーラム概要

森山新（お茶の水女子大学）

### 1. 概観

日時 2019年2月7日（木）～2月16日（土）

場所 お茶の水女子大学

主催 お茶の水女子大学国際教育センター・グローバル文化学環

2012年に第1回が行われ、今回が第8回（海外開催を含めると第10回）となる国際学生フォーラムは、本学から21名、海外からは5か国、6大学、14名の学生が本学に集い、実施された（本プログラムは日本学生支援機構のショートステイ・プログラムに採択されている）。

東日本大震災がきっかけに始まったこのプログラムは、当初は東日本大震災の復興支援や学生の国際連帯に焦点をあて、世界の学生が交流し、討論する場として開催されてきたが、回を重ねる毎に徐々に討論の範囲を広げ、今回は最近の東アジアにおける国家間の関係悪化を念頭に、最大の災害とも言える「戦争」をいかに克服し、東アジアが共に生きることができるのか、について討論を行った。海外からは当事者である韓国、中国に加え、戦争を乗り越え共同体を築いたヨーロッパ、人種・文化の壁を乗り越え、多文化主義に至ったオセアニア、世界のリーダー的役割を担ってきたアメリカからも参加者を募った。

2月7日にチェックイン、8日に開講式・講演会・歓迎会を実施、9日にはテーマに関するスタディ・ツアーを実施した。11日、12日には参加大学がそれぞれの立場から、東アジア、そして世界が様々な困難や対立を乗り越えて、共に生きることができるのかについての発表を行い、その後、全体討論において、その回答を見出すべく、議論が行われた。カンタベリー大学（ニュージーランド）の発表では、多文化主義が国籍や民族の壁を克服する道を提供してくれた。続くヴァッサー大学（アメリカ）の発表では、対立を克服し、平和を実現するリーダーシップとはどのようなものかについて語られ、ワルシャワ大学（ポーランド）の発表では、ポーランドがたどってきた歴史を振り返り、共同体（欧州連合）の建設と参加が果たした役割について語られた。さらに、大連理工大（中国）の発表では、日中韓の大学生が連帯し共に生きるために、国際的なグループ結成の具体案が示された。また、これまで交流を続けてきた、釜山外国語大学校・同徳女子大学校（韓国）からは、これまで本学と行ってきたテレビ会議システムを利用した国際合同遠隔授業や日韓大学生国際交流セミナーの成功を踏まえ、日韓、そして東アジアが共に生きるための具体的な提案が示された。最後の本学学生の発表では、東アジア対立の原因を分析し、かつヨーロッパが対立を乗り越えて共同体を建設した歩みを参考に、東アジア共生のためのシティズンシップを育む具体的な提案がなされた。発表は複言語主義の考えに基づき、海外の参加者は日本語で、日本の参加者は英語で行われた。

本プログラムは、2年生以上は「グローバル化と言語教育1」、1年生は「多文化交流実習3」を履修して参加した。10月に参加者を募集し、11月～1月には毎週、事前学習を行った。また、参加者は、学生代表、シンポジウム発表、開講式・閉講式、歓迎会・送別会、講演会・シンポジウム、ツアーの6つのグループに分かれ、教員らのサポートのもとに事前の準備を進め、学生自らの手でフォーラムの準備と運営を行った。

残念ながら今日の東アジアには国家間の様々な対立が存在し、解決の見通しは全く立たずにいる。そのような中、世界の学生が集い、東アジアと世界の共生のために、互いの意見に耳を傾け、忌憚のない対話と話し合いが持たれたことは、非常に喜ばしいことであると言わざるを得ない。本プログラムが、対立の多い東アジア、そして世界に、和解と共生をもたらす第一歩となれば幸いである。

## 2. 日程表

月日 (曜日)	午前	午後
10月	説明会・参加者募集	
11月～1月	事前学習 (毎週月曜 9-10 時間目)	
2月 7日 (木)	海外参加者来日・入寮	
2月 8日 (金)	開講式・オリエンテーション	講演会・歓迎会
2月 9日 (土)	スタディ・ツアー (江戸東京博物館、横網町公園他)	
2月 10日 (日)	発表準備	
2月 11日 (月)	来賓挨拶 金榮敏 (同徳女子大・教員) 学生発表 (カンタベリー大・ヴァッサー大・ワルシャワ大・大連理工大・釜山外大)	
2月 12日 (火)	来賓挨拶 王冲 (大連理工大・教員) 学生発表 (同徳女子大・お茶の水女子大)	全体討論
2月 13日 (水)	東京文化体験ツアー (お台場・銀座)	
2月 14日 (木)	自由研修	
2月 15日 (金)	閉講式	送別会
2月 16日 (土)	退寮・帰国の途に	

## 3. 参加者

### 3.1 本学参加者 (21名、履修・聴講含む、一般参加除く)

氏名	大学	学部	学科	学年	担当
g1710202	安食 礼子	文	言語 (グロ文)	2	代表
g1612406	本田 歩	文	人社 (グロ文)	3	代表
g1710219	榎本 愛子	文	言語 (グロ文)	2	発表
g1710222	大山 可乃	文	言語 (グロ文)	2	発表
g1710241	酒井 麻佑子	文	言語 (グロ文)	2	発表
g1810249	柄田 千尋	文	言語	1	開閉講式
g1710421	高橋 あみ	文	人社 (グロ文)	2	開閉講式
g1810436	森下 瑠里花	文	人間社会科学	1	開講式
g1830113	上山 友梨子	生活	食物栄養	1	シンポ
g1810414	桑原 千尋	文	人社	1	シンポ
k1890064	王 艶		研究生		シンポ
k1890078	シュウ キンエイ		研究生		シンポ
g1620421	古市 萌	理	生物	3	歓迎会
k1890032	ソヌ ジミン		交換留学生		歓迎会
k1890034	チェ ウンジン		交換留学生		歓迎会
k1890051	尹 海貞		交換留学生		送別会
g1620422	水城 真智子	理	生物	3	送別会
g1710266	中村 祐貴	文	言語 (グロ文)	2	ツアー
g1710275	深山 華手那	文	言語	2	ツアー
g1830217	松中 円来	生活	人間環境科学	1	ツアー
g1810269	古尾谷 志歩	文	言語	1	ツアー

### 3.2 海外参加者（14名）

氏名	大学（国）	バディ
キム・ソハ	同徳女子大学校（韓国）	高橋
イム・ヒジン	同徳女子大学校（韓国）	深山
キム・ドハ	同徳女子大学校（韓国）	上山
チョー・ソネ	同徳女子大学校（韓国）	桑原
シン・スンア	同徳女子大学校（韓国）	松中・ソヌ
ベク・ミラ	釜山外国語大学（韓国）	王・安食
ソン・ユジン	釜山外国語大学（韓国）	榎本・大山
リュウ・モクカン	大連理工大学（中国）	古市・水城
シユウ・シユガン	大連理工大学（中国）	本田・周
ガベウ・マルティナ	ワルシャワ大学（ポーランド）	柄田・森下
ザウオイスカ・アリチア	ワルシャワ大学（ポーランド）	古尾谷・ユン
ダッフィー・ウィリアム	ヴァッサー大学（アメリカ）	安食・本田
ターナー・クリス	カンタベリー大学（ニュージーラン	中村・松中
フリン・エミリー	カンタベリー大学（ニュージーラン	酒井・ソヌ

### 4. スタッフ

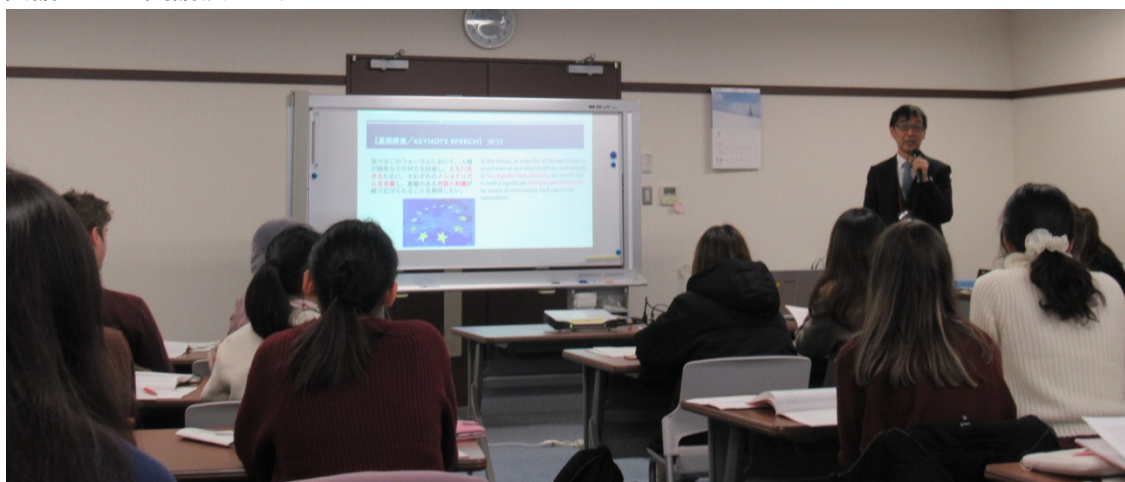
大学	名前	所属	役職
お茶の水女子大学	森山 新	グローバル文化学環・国際教育センター	教員
お茶の水女子大学	井上 貴恵	国際教育センター	AF
お茶の水女子大学	長塚 尚子	国際教育センター	AA

### 5. 講師その他

大学	名前	所属	役職
山口大学	山本 冴里	招待講演会・講師	教員
お茶の水女子大学	小松 祐子	招待講演会・講師	教員
同徳女子大学校	金 榮敏	引率・シンポジウム挨拶	教員
大連理工大学	王 冲	引率・シンポジウム挨拶	教員

### 6. 参考写真

#### 開講式・基調講演（2月8日）



## 大学紹介（2月8日）



## 小松祐子先生講演（2月8日）



## 山本冴里先生講演



歓迎会（2月8日）



スタディー・ツアー（2月9日）



シンポジウム・来賓挨拶（2月11日）



シンポジウム・カンタベリー大学発表（2月11日）



シンポジウム・ヴァッサー大学発表（2月11日）



シンポジウム・ワルシャワ大学発表（2月11日）



シンポジウム・大連理工大学発表（2月11日）



シンポジウム・釜山外国語大学校発表（2月11日）



シンポジウム・来賓挨拶（2月12日）



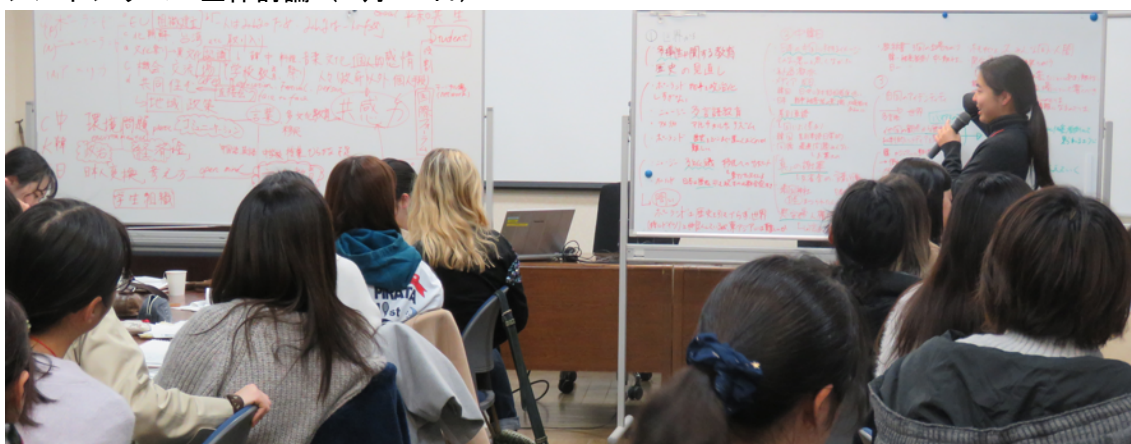
シンポジウム・同徳女子大学校発表（2月12日）



シンポジウム・お茶の水女子大学発表（2月12日）



シンポジウム・全体討論（2月12日）





シンポジウム・記念撮影（2月12日）



スタディ・ツアー（2月13・14日）





閉講式（2月15日）



送別会（2月15日）

